

## 「リトルマーメイド」と「ピーターパン」を鑑賞して感じたこと

勝山 颯太（高校2年）

私は高校で演劇部に所属して活動しています。今回のトーランス派遣で、アメリカの演劇に大変興味を持っていることをホストファミリーに伝えたところ、なんと二つの演劇を見る機会を与えてくださったのです。貴重な機会をいただき、ホストファミリーには心から感謝しています。

最初に見たのは「リトルマーメイド」で、トーランス市で25年も公演が続いている劇です。劇場の規模は小さいですが、限られた設備を十分に活かし、しっかりと物語の世界観を表現していました。例えば、舞台の大道具や大掛かりな装置などにローラーを付け、動かしやすくすることで時短を図ったり、人魚の泳ぎを再現するために滑る靴をはいたりなど、様々な情景に入り込みやすい工夫がされています。また、手話と英文が流れる画面が舞台の下手にあり、ところどころに手すりがあり、様々なハンデを持つ観客へも配慮がされていると思いました。そのため、アドリブができなかったり、舞台の一部が使えなくなるといった制限がありました。

「ピーターパン」は、最新技術が詰まったという Hollywood Pantages Theatre（パンテージズ シアター）で見ました。最新技術が詰まっているので舞台装置が素晴らしく、その活かし方も目を見張るものがあります。ワイヤーを使って登場人物を飛ばせたり、常に主要な登場人物にスポットライトをあてるなど、観客が驚いたり注目するような工夫が多かったです。その他にも、オーケストラと役者の連携が見事で、ドアを開ける音を出したり、ティンカーベルの話するとき音を奏でたりしていて、まるで本当にその場から音が出ていような劇でした。さらに下の写真のように、どの席から見ても舞台が目線の真ん中に来るようになっていて、快適に劇を見ることができました。「リトルマーメイド」では暗転中に場転を行うことが多かったのですが、「ピーターパン」では暗転を使わずに照明を工夫することで観客の視線を役者に集め、隠れて場転を行うことでスムーズに劇を続けることができます。



どの席からも舞台が見やすい Hollywood Pantages Theatre

この二つの演劇を見て、小劇場で演劇を行う場合は、設備の自由はきかないが、劇の自由はきく、大きな会場で演劇

を行う場合は、設備は様々な工夫ができるし、劇の構成も裁量が大きいということを考えました。

また観客も日本と違い積極的に劇に関わろうとしていて、声を出したり、劇の暗転中は拍手をしたり、まるで劇の一部のような一体感が生まれ、日本の劇よりも人の温かさを感じることができました。学校でもそのような、観客も創作側の一員になれる劇ができるよう、演劇部の仲間たちと切磋琢磨していきたいと思います。